

シミュレータ教育実習 I・II

Medical Simulation I・II

単位数：各 6 単位

○岩下 義明 教授：救急医学
山田 法顕 准教授：救急医学
牧石 徹也 教授：総合医療学
狩野 賢二 講師：クリニカルスキルアップセンター

1. 科目の教育方針

医学生、看護学生、医師・看護師及びその他のメディカル・スタッフにシミュレータ教育の指導を行うことができる医療シミュレータ教育指導者として必要な能力を修得する。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 技能修得の方法について学ぶ。
- 2) 技能の評価方法とフィードバックについて学ぶ。
- 3) 医療者育成におけるシミュレータ教育の必要性について学ぶ。
- 4) 地域医療におけるシミュレータ教育の必要性について学ぶ。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 技能修得の方法について説明できる。
- 2) 技能の評価方法とその問題点について説明できる。
- 3) 技能向上のための指導とフィードバックができる。
- 4) 地域医療におけるシミュレータ教育を実践できる。

3. 教育の方法、進め方

主に医療シミュレータを用いた実習を実施する

4. 成績評価の方法

実習態度とレポートにより評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

エッセンシャル臨床シミュレーション医療教育 篠原出版新社

シミュレーション医学教育入門 篠原出版新社

Clinical Simulation Richard Kyle, W. Bosseau Murray

6. 教育内容

1) シミュレータ教育実習I (1年次)

学内外におけるシミュレータを用いた実習及び地域医療に関する実習を計6週間行う。シミュレータを用いた実習では、シミュレータ機器についての知識とシミュレータ機器使用についての技術を獲得するとともに、医学科のOSCE実習に教員の補助として参加し、シミュレータ教育の実際について学ぶ。また地域の医療現場で実習を行うことにより、地域の臨床教育病院におけるシミュレータ教育のあり方について学ぶ。

2) シミュレータ教育実習II (2年次)

シミュレータ教育実習Iで学んだことをもとに、さらに本学や地域臨床教育病院においてシミュレータを用いた教育実習を6週間行う。本実習では、シミュレータを用いた教育に必要なプログラムの作成方法や評価方法の修得に努めるとともに、地域の医療技術向上(大学と地域臨床教育病院との稼働、シミュレータ教育の均てん化)のための方策について学ぶ。

7. 教育内容 (実習)

実習の詳細については別途配付する。